

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | |
|----------------|--|-------------------|--|---|-------------------------------|----------|
| 学 校 名 | 設置認可年月日 | 校 長 名 | 所 在 地 | | | |
| 国際動物専門学校 | 平成9年1月27日 | 下 菌 恵子 | 〒154-0014 東京都世田谷区新町 2-1-5 (電話) 03 (5430) 4400 | | | |
| 設 置 者 名 | 設立認可年月日 | 代 表 者 名 | 所 在 地 | | | |
| 学校法人 シモゾノ学園 | 平成9年1月27日 | 下 菌 恵子 | 〒154-0011 東京都世田谷区上馬 4-3-2 (電話) 03 (5430) 4400 | | | |
| 目 的 | 動物の神経疾患、整形外科疾患等に対する運動機能回復やリハビリテーションなどを目的とした動物理学療法についての専門的知識やリハビリ技術を修得した動物看護師としての人材を育成する。 | | | | | |
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 修業年限 (昼、夜別) | 全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数 | 専門士の付与 | 高度専門士の付与 |
| 文化・教養 | 動物管理 専門課程 | 動物看護・ 理学療法学科 | 3年 (昼) | 2,700単位時間 (又は単位) | 平成22年2月26日 文部科学省 告示第30号 | — |
| 教育課程 | 講義 | 演習 | 実験 | 実習 | 実技 | |
| | 1,380 単位時間 (又は単位) | 30 単位時間 (又は単位) | 単位時間 (又は単位) | 1,290 単位時間 (又は単位) | 単位時間 (又は単位) | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 120 人 | 97人 | 16 人 | 3 人 | 19 人 | | |
| 学期制度 | ■前 期：4月1日～9月30日 ■後 期：10月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 試験による | | |
| 長期休み | ■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24～8月31日 ■冬 季：12月23日～1月8日 ■春 季：3月22日～4月9日 ■学 年 末：3月31日 | | 卒業・進級条件 | 修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する | | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 国際どうぶつ祭 等 ■サークル活動 (有)・無) | | |

| | | | |
|---------|---|---------|---------|
| 就職等の状況 | <p>■主な就職先、業界等：動物業界（動物病院等）</p> <p>■就職率※1 100.0%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2 93.7%</p> <p>■その他（任意）</p> <p>（平成27年度卒業者に関する平成28年5月時点の情報）</p> | 主な資格・検定 | 認定動物看護師 |
| 中途退学の現状 | <p>■中途退学者 7名 ■中退率 7.14%</p> <p>平成27年5月1日在学者 98名（平成27年4月入学者を含む）</p> <p>平成28年3月31日在学者 91名（平成28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>経済的、進路変更、健康問題等</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>経済的支援、担任・スクールカウンセラーによる相談</p> | | |
| ホームページ | URL: http://iac.ac.jp | | |

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

動物の飼育頭数減少に伴う受診数の減少改善を鑑み、犬のみではなく猫のリハビリテーションについて実施を考える。猫のリハビリテーション技術を修得するために、スタッフが学ぶ。

高齢ネコの現状については学ぶことができたが、リハビリの実際については引き続き学習が必要である。

飼い主家族が、動物の機能不全を早期に発見し、リハビリテーションに関心を持ち、開業獣医師に受診しようという気持ちを惹起させるための啓発方法を学ぶ。

早期発見されて来院した症例に対する飼い主教育指導方法を知る。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

| 名 前 | 所 属 | 名 前 | 所 属 |
|--------|-------------|--------|----------------------------|
| 下 菌 恵子 | 国際動物専門学校教職員 | 赤石 愛子 | 国際動物専門学校教職員 |
| 下 菌 智一 | 国際動物専門学校教職員 | 佐藤 理子 | 国際動物専門学校講師 |
| 今西 孝一 | 国際動物専門学校教職員 | 笹木 久美子 | 国際動物専門学校教職員 |
| 大坪 利久 | 国際動物専門学校教職員 | 渡辺 直子 | 国際動物専門学校教職員 |
| 吉川 鉄平 | 国際動物専門学校教職員 | 細井戸 大成 | 公益社団法人 日本動物病院協会 会長 |
| 山下 眞理子 | 国際動物専門学校教職員 | 小林 孝之 | アニマルクリニックこばやし 院長 |
| 大木 隆昌 | 国際動物専門学校教職員 | 上野 弘道 | 株式会社日本動物医療センター グループ最高執行責任者 |
| 川口 絵津子 | 国際動物専門学校教職員 | 田中 健司 | 株式会社西武ペットケア 代表取締役社長 |
| 栗島 みゆき | 国際動物専門学校教職員 | 武宮 臣佐 | アバロン・ヒルサイドファーム株式会社 |
| 和知 教之 | 国際動物専門学校教職員 | 須山 雄次 | 犬の保育園 FIELD U 代表 |
| 黒田 ミユキ | 国際動物専門学校教職員 | | |

(開催日時)

第 1 回 平成 2 8 年 6 月 2 日

第 2 回 平成 2 8 年 8 月 2 日 (予定)

第 3 回 平成 2 8 年 1 1 月 2 2 日 (予定)

第 4 回 平成 2 9 年 2 月 2 8 日 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

臨床現場で実際の症例において必要となる飼い主教育指導方法について知るために必要な、リハビリテーションの技術を習得する。リハビリテーション専門施設を開設している獣医師の指導を受ける。

学園内では体験することができない実際の症例について観ることができる。

| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|-------------|---|----------------------|
| リハビリテーション実習 | 日常の診療の中で数多い膝関節と股関節の機能不全についてのリハビリテーション技術を学ぶ。 | D&C Physical Therapy |

| | | |
|-------|---|---------------|
| 動物薬理学 | 猫は痛みに対する表現方法が犬と異なるので、痛みに対する表現方法を学び、その上で痛みの機序、鎮痛薬について学習する。 | 酪農学園大学 佐野忠士先生 |
|-------|---|---------------|

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

実際の症例を観る機会を持つために、リハビリテーション専門施設研修に行く⇒教員が施設見学及び実例見学研修ができるよう計画する。(1名/1回/月)

教職課程に必要な講座を受講できるようにする。

学園内飼育犬で、膝に障害のある事例を用い、整形外科手術を外部動物病院で実施した後のリハビリテーションの実施をする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

| 名 前 | 所 属 |
|--------|-----------------|
| 横田 淳子 | 一般社団法人日本動物看護職協会 |
| 田中 健司 | 株式会社西武ペットケア |
| 丸山 一夫 | 国際動物専門学校卒業生 |
| 大江 記代子 | 国際動物専門学校保護者 |

(開催日時)

第 1 回 平成 28 年 4 月 28 日

第 2 回 平成 28 年 8 月 30 日 (予定)

第 3 回 平成 28 年 10 月 4 日 (予定)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://iac.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://iac.ac.jp>

授業科目等の概要

| (動物管理専門課程 動物看護・理学療法学科) 平成 28 年度 | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|------------------|------------------|-----------------|--|---------|----------|-------------|------------------|--------|--------------------------------------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授 業 方 法 | | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 |
| ○ | | | 7つの習慣 J | 人間力・社会人を身に付ける | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 就職セミナー (社会人基礎力) | 社会人に向けての基礎力及び就職活動におけるスキルを身に付ける | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | パソコン実習 | 基本的なパソコン操作を学び、ワード、エクセル、パワーポイントを使える知識・技術を学ぶ | 3 | 30 | 1 | △ | ○ | |
| ○ | | | 基礎学 I | 国語力及び数学、生物学の基礎知識を学ぶ | 1 | 15 | 0.5 | ○ | | |
| ○ | | | 基礎学 II | 動物看護における基礎的な知識を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 動物行動学 I | 犬猫の発生起源、種類などによる特徴を知り、基本的行動様式から適性飼育と正しい基本的なしつけを学ぶ | 1 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 動物形態機能学 I | 各種動物の身体の構造、筋骨格系、呼吸器系、消化器系、循環器系の機能を学ぶ | 1 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 動物形態機能学 II | 各種動物の泌尿器系、内分泌系、神経及び感覚器系の機能を理化する。更に解剖学用語を習得し生命現象を学ぶ | 2 | 90 | 3 | ○ | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|------------|---|---|----|---|---|--|--|
| ○ | | 病原体・衛生管理 I | 病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努めるための知識を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 公衆衛生学 I | 公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全などに活かせる知識を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物感染症学 I | 犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護について学ぶ | 1 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | 動物看護学 I | チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務指針から動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を学ぶ | 1 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | 動物健康管理 I | 健康な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体にあった適正飼育に努めるよう飼い主指導をすることを学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 臨床動物看護学 | 各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を学ぶ | 2 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | 動物入院管理 I | 個体別及び疾患別に応じた看護力を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物福祉論 I | 生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物人間関係学 | 人と動物の絆(HAB)の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し人と動物の共生についてを学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物繁殖学 I | 犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊・去勢の知識を身に付け助産と性別疾病予防につちえ学ぶ | 2 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 救急救命対応 I | エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命を学ぶ | 2 | 30 | 1 | ○ | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----------------|--|---|----|---|---|--|---|
| ○ | | | 動物病理学Ⅰ | 発病のメカニズムと病理学的特徴を学ぶ | 2 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 動物疾病看護学Ⅰ | 犬猫のバイタルサインと病的変化を学ぶ | 1 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 動物疾病看護学Ⅱ | 犬猫の主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を学ぶ | 2 | 90 | 3 | ○ | | |
| ○ | | | 動物栄養学Ⅰ | 基礎栄養素及び犬猫の必要な栄養素、ペットフードの基本的知識を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 動物栄養学Ⅱ | 特別療法食の特性など個体にあった適切な食事管理についてを学ぶ | 2 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 院内コミュニケーションⅠ | 動物関連業界に適した思いやりを基本とした対応を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 院内コミュニケーションⅡ | 受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を学ぶ | 2 | 60 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 動物薬理学Ⅰ | 薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱うことを学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 幼齢動物・老齢動物管理学Ⅰ | 犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼い主に寄り添った在宅看護を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 動物医療関連法規Ⅰ | 獣医療現場及び動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 動物臨床検査学Ⅰ | 検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | △ |
| ○ | | | クライアントエデュケーションⅠ | 人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼い主指導を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------|--|---|----|-----|---|---|---|
| ○ | | 飼養管理学Ⅰ | 実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生を学ぶ | 1 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 飼養管理学Ⅱ | 伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適性飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼い主指導を学ぶ | 2 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物理学療法学概論Ⅰ | 動物理学療法に関する基本的な知識を学ぶ | 2 | 45 | 1.5 | ○ | | |
| ○ | | 動物理学方法学概論Ⅱ | 動物理学療法に関する応用的な知識を学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 動物理学療法解剖生理学・実習Ⅰ | 動物理学療法を実施する上で、特に必要な神経について学ぶ | 1 | 45 | 1.5 | ○ | | △ |
| ○ | | 動物理学療法解剖生理学・実習Ⅱ | 動物理学療法を実施する上で、特に必要な筋肉・関節について学ぶ | 3 | 15 | 0.5 | ○ | | △ |
| ○ | | 画像診断学・実習 | X線、エコーなど、各種の画像の診断について学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | △ |
| ○ | | 神経・整形外科学 | 動物理学療法を実施する上で、特に必要な神経系や整形外科系疾患について学ぶ | 3 | 30 | 1 | ○ | | |
| ○ | | 物理療法学 | 動物理学療法を実施する上で使用する、物理療法に関することを学ぶ | 2 | 60 | 2 | ○ | | △ |
| ○ | | 評価学 | 各種検査結果に関する評価方法を学ぶ | 3 | 60 | 2 | ○ | | △ |
| ○ | | 臨床動物看護学演習 | 診療現場で実際に必要となる技術全般を演習することで学ぶ | 3 | 75 | 2.5 | ○ | ○ | |
| ○ | | 動物看護実習Ⅰ | 基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的な手技を学ぶ | 1 | 60 | 2 | △ | | ○ |

| | | | | | | | | | |
|----|--|--------------|--|----|-----|----------|---|---|--|
| ○ | | 動物看護実習Ⅱ | 動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける | 2 | 90 | 3 | △ | ○ | |
| ○ | | 動物臨床検査学実習Ⅰ | 基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的な手技を学ぶ | 1 | 60 | 2 | △ | ○ | |
| ○ | | 動物臨床検査学実習Ⅱ | 動物臨床検査学実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身に付ける | 3 | 90 | 3 | △ | ○ | |
| ○ | | 外科動物看護実習Ⅰ | 基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を学ぶ | 3 | 45 | 1.5 | △ | ○ | |
| ○ | | 外科動物看護実習Ⅱ | 外科動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身に付ける | 3 | 45 | 1.5 | △ | ○ | |
| ○ | | リハビリテーション実習Ⅰ | 動物理学療法の手法である徒手療法、運動療法、物理療法などの技術を学ぶ | 2 | 90 | 3 | △ | ○ | |
| ○ | | リハビリテーション実習Ⅱ | リハビリテーション実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身に付ける | 3 | 120 | 4 | △ | ○ | |
| ○ | | 美容実習Ⅰ | グルーミング・トリミング技術のブラッシング、ベイシング、カットティングなどの基礎技術を学ぶ | 1 | 120 | 6 | △ | ○ | |
| ○ | | 美容実習Ⅱ | 美容実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身に付ける | 2 | 105 | 3.5 | △ | ○ | |
| ○ | | 総合臨床実習Ⅰ | インターンシップによる学外実習において、実践力習得を学ぶ | 2 | 30 | 1 | | ○ | |
| ○ | | 総合臨床実習Ⅱ | インターンシップによる学外実習において、実践力習得を学ぶ | 3 | 60 | 2 | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | | 2700単位時間 | | | |